今週のみことば

「御子を信じる者は永遠のいのちを持つ」

(ハバクク書2章1節～4節)

「見よ。彼の心はうぬぼれていて直ぐでない。しかし、正しい人はその信仰によって生きる。」(2:4)

(ヨハネの福音書3章22節～36節)

「御子を信じる者は永遠のいのちを持っているが、御子に聞き従わない者はいのちを見ることなく、神の怒りがその上にとどまる。」(3:36)

今日のメッセージ要旨

◎罪深い私たちが神様の前に正しい者とされ、永遠のいのちを受けるために必要なことは何でしょうか？

◎ハバクク書2章の前半で、私たちはいつも「主がわたしに何を語り」「主になんと答えようか」見極めることが大切なのです。ハバククは神様に自分の疑問を訴えた後(1:12-13)、答えを持ち望んだ。主は答えられたのです(2-3)。

やがてユダを滅ぼすカルデヤ人(バビロン人)も勢いがあったのは一時だけで、やがて高慢になり滅ぼされる。そして、主こそ神であることが明らかになります(14, 20)。「幻」は、はっきりと言葉で書き記すことの出来る神様からの確かな指針なのです。悪者の「うぬぼれていて、まっすぐでない」姿は、「自分の力を神とする」(1:11)高ぶる者に通じる。主を待たず、自分の知恵と力に頼む者は、自分の思い通りにならない現状だけを見て怒りを蓄えるのです。

人は「信仰によって」神様の前に「正しい者とされる」のです。「彼は主を信じた。主はそれを彼の義と認められた」のです(創世記15:6)。パウロは「義人は信仰によって生きる」と告白しています(ローマ1:17、ガラテヤ3:11、ヘブル10:38)。これはルターの宗教改革に至ったみことばの一つです。

◎ヨハネの福音書3章の後半のみ言葉により、バプテスマのヨハネの内に与えられていた喜びが何かを教えられたい。洗礼者ヨハネは「荒野に呼ばわる者の声」として遣わされた預言者です(イザヤ40:35, マタイ3:2, マルコ1:2, ヨハネ1:23)。

ヨハネは御使いによる誕生を告知された者であり(ルカ1:11-20)、ナジル人として聖別され(同15)、荒野に住み(同1:63, 80)、悔い改めのバプテスマを説き、宣教活動をし(同3:2-18)、イエス・キリストに洗礼を受け(マタイ3:13-16)、イエス様をメシヤ(救い主)と認め、そのキリストを証ししたのです(ヨハネ1:29-36, 5:33)。

このヨハネは恐れを知らず、ヘロデの姦通罪を非難したことにより(マルコ6:17, 18)、ヘロデによって投獄され(マタイ4:12)、獄中で一時キリストに対して「疑問を抱いた」こともあります。イエス様から「わたしにつまずかない者は幸いです」と言われたのです(マタイ11:2-6)、その後、ヨハネは斬首されましたが(同14:3-12)、ヘロデからは「正しい聖なる人」と評価されていたし(マルコ6:20)、主イエス様もその洗礼者ヨハネを「預言者よりもすぐれた者」(マタイ11:9-13)、「エリヤの再来と認め」て証言され(同11:13-14)、「燃えて輝くともしび」と告げられたのです(ヨハネ5:35)。洗礼者ヨハネは「私はキリストではなくその前に遣わされた者である」と告げたのです。

◎洗礼者ヨハネは謙遜に花婿なるイエス・キリスト様の友に徹し、また自分の友であられる主イエス様が栄えることを喜んだのです。ヨハネは自分の洗礼よりもイエス・キリストの洗礼に人々がついて行くことに対し、ヨハネの弟子たちはいぶかりましたが、「彼は栄え、私は衰える」と告白し、イエス・キリストが栄えることを喜び、主イエス様に栄光を帰したのです。

◎私たちはイエス様をキリスト(救い主)と信じることによって罪許され、神様に受け入れられ、永遠のいのちを戴くのです。